

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000788		
法人名	有限会社アイケアおたる		
事業所名	グループホームアイケアおたる (1階)		
所在地	小樽市若松2丁目1-18		
自己評価作成日	平成22年12月6日	評価結果市町村受理日	平成23年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族へ報告する仕組みとして、利用者様の日々の生活記録を複写にし、送付している事でご家族とのつながりと安心に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000788&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年1月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JRの駅に近い住宅街に立地している。利用者が町内の行事や活動に積極的に参加し、地域住民も事業所の音楽療法に参加したり、ボランティアで事業所を訪れる等、地域住民との日常的な交流を行っている。また、運営推進会議にも地域住民が参加し、地域との連携を図っている。かかりつけ医や協力医療機関の医師や看護師による頻繁な往診や訪問看護を実施し、24時間相談可能な体制となっているなど、医療面も充実している。開設から6年が経過し利用者の重度化が進む中で、管理者及び職員は利用者の思いや意向の把握に努め、利用者一人ひとりの希望に沿ったきめ細かなケアの実現を目指し、丁寧な言葉遣いで穏やかに利用者に接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員からの申し送り後、管理者が当日の勤務者に理念を復唱、理念に沿った支援に取り組めるように日々努めています。	管理者は申し送りなどを通して折に触れ理念について職員に話し、共有している。利用者一人ひとりにとって、より良いケアとは何かを日々考えながら、理念に沿ったケアの実践に向け努力している。	理念については法人全体の共通した理念であるため、それとは別に、地域の特性に合った事業所独自の理念の作成を検討することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会のお祭りは毎年参加させて頂き、年6回の資源回収、ゴミ拾い、草刈等に参加、これからも地域、町内の皆様と交流を深めていきたいです。	事業所の音楽療法に地域住民が参加したり、近所の花屋が毎月事業所に花を活けに来るなど、地域住民と日常的に交流している。また今後、近隣の学校の子供達との交流も検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム内での行事また気軽にホームに遊びに来て頂ける様に回覧にて呼びかけさせて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の取り組み内容の報告に対し、ご意見、要望等、職員と話し合いサービス向上に努めています。	運営推進会議は、利用者本人、家族、職員、町内会役員、地域住民代表が参加し、2ヶ月に1度開催している。会議では、利用者の生活状況、外部評価への取り組み、防災体制等が議題となっている。家族や地域住民からは活発に質問や意見が出され、それらを運営に活かしている。	管理者は地域包括支援センター職員にも運営推進会議への参加を働きかけているが、現在のところなかなか参加が得られていない状況である。今後も継続的な働きかけを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員の方に運営推進会議に出席して頂いたりしておりますが今後も他の機関に相談等行えるよう取り組んでいきたいと考えております。	生活保護課、介護保険課を中心に、市担当者と密に情報交換を行っている。また、運営推進会議の中で市担当者が講演するなど、共に連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。	今後も運営推進会議への市担当者の継続的な参加を働きかける等、市との連携をより深める取り組みに期待する。また、グループホーム管理者会議への参加等、他事業所との交流にも積極的に取り組むことを期待する。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム職員全体で「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、身体拘束防止委員会を組織して身体拘束のないケアに取り組んでいるが、身体拘束に関する研修はまだ行っていない。玄関は家族の了解を得て夜間のみ施錠している。	今後、フロア会議で身体拘束について取り上げる予定であるので、改めて全職員が身体拘束について正しく理解し、身体拘束のないケアに取り組むことを期待する。また、SOSネットワークへの加入等、警察との連携の強化に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法に関しては、研修に参加し、その内容をフロア会議の場にて職員と共に話し合い、勉強会を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体としての勉強は今現在行っていないが、今後は外部の研修等で参加可能なものは参加し理解を深めていきたいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約及び利用解除に際しては、入居担当者、管理者より入居者様、ご家族様の不安、疑問等は丁寧に対応させて頂き、納得されております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場においても、ご家族様との意見交換をさせて頂いており、入居者様からのご意見、不満、苦情を日々の言動から察するよう心掛け反映できるように	年2回家族会を開催し、家族の意見を聞く機会を設けている。職員は家族の来訪時には必ず声かけし、気軽に意見や要望を言うことができる雰囲気づくりに努めている。また、出された意見や要望には迅速に対応し、記録として残している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や本社よりグループホーム担当の統括がらい所持職員の意見を聞いたりしています。	日常業務やカンファレンスの中で、職員からは利用者のケアに関して活発な意見や提案が出され、それらをケアに反映させている。また、職員の異動はできるだけ少なくなるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスを軽減する為、休み希望を毎月聞きとってもらい、休憩時間はしっかり身体を休めてもらうようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内で管理者会議の場での研修を各事業所に持ち帰り職員へ落とし実践へ役立ててもらっています。また次年度への研修計画を立て、機械を設けています。外部の研修に関しても可能な限り参加できるように努めていきたいと考えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修会に参加させて頂いたき市内グループホームの職員との意見交流を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様より運営推進会議の場であつたり日々不安と感じられることを言ってもらい、安心して頂ける様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に到まで入居担当者や、管理者、ケアマネが不安や、要望、にお答えし安心して頂ける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、入居担当者や管理者が内容を聞き、他のグループホーム及びサービス等の紹介をしニーズに合った所を紹介したしています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側という意識を持たずに日々共に生活している関係となり共同生活を喜びとして実感して頂ける様努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の様子を介護日誌と一緒にお手紙を沿え送付しています、また面会時には往診時の報告をお話しホームとご家族の関係を築いて行けるよう努めております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にご本人様やご家族様にお話を聞き可能な限りご自宅に居た頃の様子に支援を行っています。	利用開始前からの行きつけの理美容院の利用や、かかりつけの病院の受診を支援している。また、利用者が帰宅を希望した時には、家族と相談し、短時間でも帰宅できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様と一緒に行動する事で日々の役割を持ちながら、生きいきと生活を送って頂ける様な環境作りをおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態のh変化により他の施設に移られた方を訪問し様子を伺う等関係を断ち切らないよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人ご家族の意向、今後の生活に対する希望や想いを聞き希望に沿えるよう努めています。又身体的な面では医師、ご家族、管理者間で相談し対応しています。	利用者の表情から、思いや意向を把握するよう努めている。利用者が自分で決定することを大切に、一人ひとりの生活のリズムやその日の過ごし方の希望に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人ご家族にお話を伺い少しでも馴染みの暮らしに近づける様、情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の表情や言葉、毎日の体温、血圧、脈伯の測定など、状態の変化があった時は医師へ相談し迅速に対応できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス、支援経過記録、毎朝の申し送り、介護日誌などご本人との日々の会話、行動、ご家族の面会時のお話より意向を聞き現状に即した介護計画書の作成に努めています。	計画作成担当者を中心に利用者本人、家族の意向や要望を聞き、カンファレンスで職員の情報や意見を出し合いながら介護計画を作成している。介護計画は3ヶ月ごとの定期的な見直しのほか、状況に応じて随時見直している。また、介護支援記録が介護計画と連動するよう書式を工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌、支援経過記録などにサービスの内容の実施記録を記入し、職員間で情報を共有出来る様日々の関わりや介護計画書の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	観光地という事もあり、近隣に昔ながらの市場や散歩が出来る場所があり、又、入居者様の希望時は新鮮な旬の物を召し上がって頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の花屋さんが月2回季節の花を持参し花の説明、入居者様の前で生けて下さっています。又地域のボランティアによるフラダンスの披露、町内のお祭りでも職員が神輿をかついだりし、入居者様の楽しみにもなっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりのかかりつけ医に入居後もご家族やホームで対応何か変化があれば相談し支持を頂き、支援しています。	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。看護師による週2回の訪問看護、協力医療機関の医師やかかりつけ医による往診を行い、協力医療機関やかかりつけ医とは24時間相談可能な体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は在中していませんが、本年12月より週2回訪問看護しが来所し入居者様の健康管理をみていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期に退院できるよう病院と連携を取りホームでできる事をお話し関係作りを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に説明をし、ホームで出来る事をお話してご理解いただいております、しかし重度化に向け対応出来るよう事例等をまじえ研修を行っていきたくと思います	重度化や終末期に向けた方針及び同意書を作成し、家族に説明しているが、実際に看取りをしたことはまだない。また、職員間で改めて重度化や終末期に向けたケアについて話し合ったり、研修を行ったことはない。	重度化や終末期に向けたケアについて全職員で話し合い、研修を行うとともに、家族や医療関係者とも段階に応じて話し合いを重ねながら取り組むことを期待する。また、終末期には家族が宿泊できるよう、布団等を準備することが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し職員全員が周知しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で避難訓練を2回開催し、夜間2名体制の訓練も開催して非常時に備えおります。また運営推進会議の場でも地域の方にご理解いただいております協力体制は得られるようになっております。	消防署の協力の下、夜間も想定した避難訓練を年2回行っている。しかし、避難訓練への地域住民の参加には至っていない。また、食料や水、毛布などの備蓄品も特に準備していない。	防災については運営推進会議でも議題となっており、今後、地域住民の避難訓練への参加など、地域ぐるみでの防災体制の強化に向けた取り組みを期待する。また、食料や水、毛布などの備蓄品の準備を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を重視した声掛けに努めています。またプライバシーに配慮し記録の取り扱いにも配慮しています。	職員は利用者の誇りやプライバシーを損わない声かけや対応をするよう努めている。面会簿や個人記録も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から会話の時間を多く取れるようにし、ご本人の思いや希望を察し、心地良時間を過ごして頂けるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中でその日どのように過ごしたいのかを察し、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣に馴染みの美容室があり希望される方は職員と一緒に行きお洒落を楽しんで頂いたり、衣料品もご本人の好みの物を買に行ける様対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や下ごしらえ、味見をして頂きながら料理を作る時に知恵を借りたりしています。夏にはホームの畑で収穫された野菜が食卓に並び不ぞろいの野菜を見て笑いが耐えない食事の時間となることがあります。	食材は食材業者が配達しているが、メニューは利用者の好みや希望により柔軟に変更している。栄養士の管理のもと栄養バランスの取れた食事を提供し、利用者の身体状況に応じて形状も工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が立て一日のカロリーが計算されているものをお出ししています。また水分量は状態を把握し一人ひとり一日の摂取可能な量と、摂取した量がわかるように記載しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをしながら歯ブラシを行えるようにし、汚れが残っているような時は職員が介助を行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用したり見守りの中で表情や行動の中から気持ちよい排泄が出来る様対応しています。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、時間ごとにトイレ誘導や声かけを行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方された薬の他に水分補給や乳製品、繊維質の多い食品を工夫し提供しています、また体操や散歩を取り入れて便秘の予防に取り組んでいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じて入浴できるよう心がけています、またその時の気分や体調に合わせて足浴や清拭で対応することもあります。	午前、午後共に毎日入浴可能である。入浴の順番や同性介助など、希望に応じて柔軟に対応している。入浴を拒否する利用者には時間を空けて声かけする等の対応をしている。入浴剤を利用するなど、入浴が楽しいものとなるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は2時間おきの巡回を行い静かに安眠できるように配慮しています、また、眠れないようなときは職員とお話をしながら温かい物を飲んでいただいたりしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の説明書を読み目的、用途、用量副作用を理解しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の状態を考え可能な日は散歩、外食等ホーム以外の場所で気分転換をして頂き楽しみを持っていただいております。又ホーム内でも体操の実施や音楽鑑賞、新聞、台所仕事等楽しみごとを持っていただいております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様それぞれに沿った行きたい所での買物にも希望に添えるように心がけています。	利用者の介護度が高くなってきているため、利用者一人の外出であっても職員が一人付き添い、散歩や買い物、夕食等、利用者の希望に沿った外出を支援している。	職員のシフトを工夫したり、ボランティアや家族の協力を得るなどして、利用者が揃って楽しめるような外出レクリエーションの機会が増えるよう、期待する。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の外出時には個々のお小遣いを持っていただき自身で支払いが出来る様な機会を設けています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときには何時でも支援しております。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に不快な音や光、臭い等の内容配慮し、生活観や季節感を取り入れ心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。	共有空間はバリアフリーで手すりを設置しており、広さも十分で利用者を使いやすくなっている。居室のドアには写真を貼ったりマスコットを飾るなど、利用者が混乱しないよう工夫している。音や光、臭いなどにも配慮しており、居心地の良い共有空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やベランダにベンチを置き一人になれる空間を設け、時には話の合う方と外の空気に触れゆっくりお話が出来る環境作りに取り組んでいます、また			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はもとより日々ご本人やご家族と都度相談しながら、馴染みの物や好む物を置き心地よく過ごして頂けるよう支援しています。	利用者はそれぞれ使い慣れた家具や思い出の品、好みの生活用品などを自由に持ち込み、その人らしく安心して過ごせる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム横に庭があり、小規模ですが菜園や花壇を作り四季の作物の栽培や収穫、花を切り自立した生活が出来るよう工夫しています。			